

● 顕現後第三主日

泉のほとり

今月の詩編「第五十三編」

どうかイスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕らわれ人を連れ帰るとき

ヤコブは喜び踊り

イスラエルは喜び祝うであろう



真理に属する人は

夜、一隊の兵士と千人隊長、祭司長たちやフアリサイ派の人々の下役たち、また大祭司の手下が武器を手にして、主イエスを捕縛し、大祭司アンナスのところへ連行しました。正式な告訴もなく捕らえ、尋問し、暴力を振るいました。その後、大祭司カイアファのところに送られ、偽証人たちが現れ、「死刑」の判決を下した後、総督ピラトのもとへ移送しました。

ピラトはイエスの身柄を拘束し、「あなたがユダヤ人の王なのか」と問いかけました。主は「あなたは自分の考えでそう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか」とお聞きになりました。ピラトは「私はユダヤ人なのか」と答え、さらに「あなたの同胞や祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。いったい何をしたのか」と尋問しました。

主は「わたしの国は、この世には属していない。もし、わたしの国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、実際、わたしの国はこの世には属していない」と答えられました。ピラトは「それでは、あなたは王なのか」と聞き、主は「わたしが王だとは、あなたが言っている。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く」と答えました。

「真理を聞く人」とはどのような人でしょうか。ピラトにわが主を引き渡したユダヤ人たち。正式な告訴もなく、不法な尋問や暴力が目の前で行われているにもかかわらず、それを黙認する大祭司ら。偽証人たちの証言をもとに、不法かつ不義な「死刑」の判決を下しました。ユダヤ人たちの中に、「これは真理ではない」「これには真理、真実というものがない」と我に返り、神の前で自分自身を見る、そのような貧しい心を持つ者はいませんでした。真理を聞くどころか、蛇のように狡猾で、狼のように荒々しく、真理に逆らう自分たちの姿にも気づきません。そのような自分の救いを求め、自分のための真理を聞くとする者はいませんでした。

ピラトも同様でした。主イエスは「真理に属する人は、わたしの声を聞く」と語られました。それを聞いたピラトは「真理とは何か」と問い返すだけで、それ以上何も聞きませんでした。むしろ、彼の次の行動は不誠実で、非常に不実なものでした。彼はイエスに法に反することがないと知りながら、集まってきた人々にこう問いかけたのです。「私はあの男に何の罪も見いだせない。ところで、過越祭には誰か一人をあなたたちに釈放するのが慣例になっている。あのユダヤ人の王を釈放してほしいか」と。ユダヤ人たちは「その男ではない。バラバを」と大声で言い返しました。ピラトの行動にも、ユダヤ人の大声、多数の声にも真理はありませんでした。真理の声を聞く者はいませんでした。

ユダヤ人たちにとって、真理を聞く救いの時でした。罪と悪が明らかにされ、真理から逸脱した自分自身を、これほど鮮明に見る機会はありませんでした。目の前には、何の罪もなく、人々のために真実を行い、ご自身を捧げて死のうとされる「人の子」がいました。この方にある真理を聞き、この世の業から救われる絶好の時でした。

主イエスの十字架をめぐって見えてくる事実、それはこの世に属すあらゆる人間の声——真理に逆らう人々の声——と、真理を行く主イエスの声との対比でした。

人が生きるこの世には、常に二つの道、二つの声が置かれています。それは、大祭司やピラト、群衆云々の問題ではなく、一人一人が神の前で「自分自身」を見つめることが問われています。あらゆる時に、あらゆる境遇において、あらゆる多くの声が響くこの世にあつて、「私は何を聞いて生きるのか」。実に人はこの世のあらゆる声に動かされやすいものです。「自分は立っている」と思わずに、倒れやすい者として、また自分を知恵ある者と思わずに生きましょう。どのような境遇においても、「自分」に語られる真理に耳を開き、キリストの声を聞き、自分自身を見る「一人」として生きましょう。

(ヨハネ一八・二八〜四〇 黄允湜牧師)

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○役員候補者推薦に関するお知らせ、有資格者名簿、投票用紙を配布しました。投票用紙は事務所にお持ちください。×切は二月二日(日)一三時です。

○附属幼稚園の展示会が行われています。場所は園舎二階リズム室です。日時は二六日(日)一〇時三〇分～一四時、二七月(一)一三時三〇分～一五時です。

○イースターに受洗転入会をご希望の方は、二月一六日までに牧師宛願書をご提出下さい。願書は事務所にあります。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《教育奉仕委員会より》

二月九日の礼拝後の交わりの会は「わたしの愛唱讚美歌をみんなと一緒に」の内容でもたれます。ご自分の愛唱讚美歌をご紹介ください。一階ロビーの掲示板前にボックスを置いてございますので、どうぞ投稿なさってください。当日、ご都合で参加できない方も大丈夫です。二月二日までにお願いたします。

《運営委員会より》

本日、一二時三〇分～一四時三〇分までを目途に、教会研修会を行います。先日の懇談会の発表を踏まえての研修が行われます。教会員の皆様はご参加ください。場所は地下ホールです。また資料については、一二日の懇談会時にお持ち帰りにならなかった方、また欠席された方については事前配布をしますので、事務所へお声掛けください。

《コイノニア教育センター

有志の会より》

来週二月二日にケニアのコイノニアグッズを販売いたします。色鮮やかなバッグやポーチに加え、バレンタインデーに向けておいしいスイーツも少し用意してお待ちしています。デリアコニアショップの前で、子ども礼拝、主日礼拝の後、各三〇分ぐらいの予定です。どうぞお立ち寄りください。

《交読詩篇》

※会衆は太字を唱和します。

【詩篇五十三篇】

指揮者によって。マハラトに合わせて。
マスクール。ダビデの詩。

神を知らぬ者は心に言う

「神などない」と。

人々は腐敗している。

忌むべき行いをする。

善を行う者はいない。

神は天から人の子らを見渡し、探される。

目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

だれもかれも背き去った。

皆ともに、汚れている。

善を行う者はいない。ひとりもない。

悪を行う者は知っているはずではないか。

パンを食らうかのように、わたしの民を食らい

神を呼び求めることをしない者よ。

それゆえにこそ、大いに恐れるがよい

かつて、恐れたこともなかった者よ。

あなたに対して陣を敷いた者の骨を

神はまき散らされた。

神は彼らを退けられ、あなたは彼らを辱めた。

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

神が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝うであろう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「ザアカイよ、降りて来なさい」

聖書 ルカ19章1〜10節

説教者 吉村和雄 牧師名譽

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「神さまが戦われる」

聖書 士師記7章1〜6節

説教者 吉村和雄 牧師名譽

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 18番 285番

説教 「人を恐れず、神を恐れる」

聖書 ヨハネ19章1〜16節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 77番 296番
説教 「苦難の中を、真っ直ぐに生きる」
聖書 使徒7章9～16節(新約 P.224)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「我汝を呼ぶ、主イエス・キリスト」J.バッハ

○讃美歌77番

1. み神はちからの きみにませば
あめつち御旨の ままにぞある
み神のみこえにあまつそらの
かがやき回れる 日もとどまる
2. 山なすあらなみ さかまぎつつ
巖もさけよと 寄せ来ばこよ
み神はみうでを たかくあげて
たちまち浜べに つなぎ給わん
3. 荒ぶる夜あらし 声たけりて
ちからの限りに 吹き来ばこよ
み許しあらずば みねの松に
かけたる小鳥の 巣もうごかじ
4. すべての民らよ 主のみまえに
かしこみ平伏し み名をほめよ
世界のきみたち ひぎまずきて
み神のみいつを うたいまつれ

アーメン

○讃美歌296番

1. ころみのあらし 吹きたけりて
むらがるあだびと 攻めおどせど
み山のごとくに ころやすし
わがため勝ちにし 主ましませば
2. はげしきなやみの ふりかかりて
おもいはみだれに みだれゆけど
はやしのごとくに いとしずけし
わがためたすくる 主ましませば
3. ゆくてはまぐらき おくつきにも
こえてはかえらぬ 死出のやまも
春日のごとくに げにのどけし
わがためみちびく 主ましませば

アーメン

聖餐曲「朝露の園を一人歩むとき」
(主イエスのみ声が聞こえる) D.ウット

後奏曲「協奏曲ト長調」J.S.バハ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。